

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	佐々木裕哉	印
所属機関	久留米大学医学部病理学講座	
・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名	ASH lymphoma biology (アメリカ合衆国 Washington D.C.)	
渡航期間	自 2018年8月2日 至 2018年8月6日	
・研究内容 ・国際学会・会議内容	ポスター発表 (Clinicopathological features of estrogen receptor alpha (ERα)-positive diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) and in vitro analysis of the role of ERα in DLBCL cells)	
<p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>【発表での成果】 AYA世代のがん医療を考えた場合、治療と患者の妊孕性との関連を考慮することは非常に重要である。今回は悪性リンパ腫でもっとも多い diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL) と性ホルモンレセプターのひとつであるエストロゲンレセプターアルファ (ERα) との関連を検討する研究を行った。ERα は約 70%の乳癌で発現しているタンパク質で、エストロゲンの1つエストラジオール (E2) との相互作用で乳癌の増殖に寄与すると考えられており、乳癌のホルモン療法において重要な役割を担うタンパク質である。</p> <p>DLBCL と ERα との関連を論じた論文はこれまでほとんどない。ERα と DLBCL の関連を明らかにすることは特に閉経前女性患者やホルモン補充療法中の女性患者にとって重要なテーマであると考えられる。今回は久留米大学医学部生命倫理委員会の承認のもと、DLBCL 患者検体と DLBCL 患者由来培養細胞を用いて、ERα の発現パターン、E2 と ERα の相互の関係、ERα 選択的阻害薬 (ERα ダウンレギュレーター) であるフルベストラントの DLBCL 患者由来培養細胞への影響を検討した。</p> <p>本研究の内容は 2018 年 8 月 3 日のポスターセッションとして発表させていただいた。本邦の研究者、米国の研究者、欧州の研究者らから研究データのうち、特に実験データの解釈について貴重な助言をいただいた。今後は助言をもとに研究の内容を再検討して 2018 年度内に国際誌へ投稿することを目標としている。本研究の成果が DLBCL の理解を深めるために寄与し、DLBCL 患者治療の一助となればと願っている。</p> <p>【他の演者による発表を聴講した成果】</p>		

新規薬剤使用後に見られる治療効果の相違とその根拠となる分子生物学的な背景が次世代シーケンス技術などの技術によって明らかにされていること理解した。また、次世代シーケンス技術や CRISPR-Cas9 スクリーニングによって明らかになった悪性リンパ腫の各種特徴に対して、培養細胞やマウスモデルを利用しそれらの具体的な機能解析を行う発表は今後の新規治療開発に繋がる重要な発表であると理解した。さらにリキッドバイオプシーについての最新の知見も多く、本学会で各種の研究発表を聴講できた意義は大変に意義深いものであった。

【謝辞】

今回の渡航に関して助成していただきました公益財団法人がん研究振興財団に御礼申し上げます。